

弓道ながの

第30号

発行：長野県弓道連盟
会長 山川茂樹
〒396-0025
伊那市荒井3919-3
TEL.0265(72)3060
編集：県弓連広報部
印刷：榊宮澤印刷



オイゲン・ヘリゲルのこと

副会長 高橋 康人

高校で教鞭をとるようになってから気がつけば長い年月が流れました。その間高校生と様々な形で繋がりが合いながら今日の日を迎えている訳ですが、子供と大人の世界をまるで振り子のように揺れ動く「境界人」としての高校生はまさに疾風怒濤の時を過ごしていると言えます。私自身がそのような高校生たちと、弓道という不可思議で深みのある武道を通じて関わるようになってから四半世紀が過ぎました。

弓道の魅力の一つは「射即人生」の四文字に込められたように人生につながるその教えの深さにあると言えます。そういう観点から、弓道に興味を覚えた教え子たちに必ず話すテーマの一つに、戦前東北大学へ招かれたドイツの哲学者オイゲン・ヘリゲルと阿波

研造範士に関わる以下のような有名なエピソードがあります。
ヘリゲルは日本文化理解の一助とすべく、東北の重鎮である阿波範士に師事して和弓を修行することとなりました



高校総体県大会での筆者

「学ぶことである。」そして阿波範士はヘリゲルの前で、蠟燭の灯りだけの暗闇の中で甲矢を見事に正鵠に射抜き、乙矢は継ぎ矢となってその甲矢を真つ二つに割いたのでした。
高校時代は青年期本来の特質が最も色濃くまた峻烈に現れてくる時期です。心理学的に見るならば、自我の成長、拡大、分化の激しい過程であり、自分を取り巻く様々な人々との関係を通して、人生において最も深み

だが、その際に彼は「離れ」の難しさという大きな壁に突き当たることとなりました。悩むヘリゲルに阿波範士は次のように論じたといえます。「あなたは頃合いよしと感じるか、あるいは考える時に、矢を射放とうと思う。あなたは意志を持って右手を開こうとする。つまりその際あなたは意識的である。あなたは無心になることを、矢がひとりでに離れるまで待っていることを学ばなければならぬ。中てようと氣を揉み、技巧家になろうとするのではなく、精神的に射ることを学ばなければならぬ。葉末にたまった雨露が、葉に何の衝撃も与えずに自然に地に落ちる、そんな自然の離れを学ばなければならぬ。自分を外から内へ向け、その内を次第に視野から失うことを学ぶことである。」そして阿波

や彩りが増す時期と言えます。知的展望が著しく拡大し、子供集団から大人集団という未知なる領域へと、もがき苦しみながらも移行していく激動の時代です。自分を方向づける過去、現在、未来を結ぶ様々な線や人間関係の糸が見え隠れし、それを繋ぐために猛烈な読書をしたり、友人達と激論を戦わせたりするものです。しかし、焦れば焦るほど見えなくなってしまうことがえてして多いものです。時の流れとともに自然に機が熟すのを待つことの意義を知らなければならぬ時期でもあるのです。蓄積された労苦が、巧まずしてその人間の生き方を方向づけてくれるものであることに気づき、じっくりと自分の中に様々な蓄えを積み重ねていくことで、次なるステップへの自然の離れの時を創り上げていくことが極めて大切であると思うのです。ヘリゲルと阿波範士とのエピソードはそのことを子供たちに教えてくれていると思うのです。
放課後の部活動や各種大会で直向に弓道に取り組む高校生の姿に接するたびに、彼らが弓道を通じて自分の人生をより豊かなものに高め、不透明さを増す時代の中で確かな自己実現を果たしてくれることを期待するこの頃です。

(松本深志高等学校長)

全日本弓道連盟 定時評議員会報告

評議員 外園 公毅



平成二十一年度定時評議員会が五月三十日東京品川プリンスホテルで行われ、

山川会長と出席してきました。例年だったら事前に届くはずの関係資料が今年は当日の配布となった。冒頭で事務局より監査の段階で公認会計士から精査したいので持ち帰りたいとの要望が出され遅くなってしまったとお詫びの説明があった。来年度に予定している公益財団法人化の認可申請のかかりと思われる。

会議は物故者への黙祷、定足数の確認の後、議事に入った。一号・二号議案は二十年度事業報告書・決算報告書についてであったが、二十年度全弓連の変革事業としては五月に京都市勧業館(みやこめっせ)において仮設射場を設け全日本弓道大会実施、八月に全国高等学校体育連盟弓道専門部委員長研修会を実施、十月大分国体から国体改革推進により各種別の出場枠数、員数刷新が行なわれ成年男子もブロック予選が実施されたこと等があげられた。決算報告書については詳細は省くが次期繰越金は前期より約四千万円減

の約四億二千万円との報告があった。

三号・四号議案は公益財団法人化移行に関わるもので、移行にあたって現行の寄附行為の変更を含め、新たな定款の作成作業、特に財務区分の立て直しのため大なたを振るう必要が生じているとの説明があった。現行の寄附行為上の不備については文科省の指導に則り全て変更している。評議員の選出については、公益法人の申請、認可後、移行に関わる最初の評議員は法令により選定にあたる事務手続上の形式機関が義務付けられており、選定委員会の人選は鈴木会長に一任され秋までに決定する。現行の評議員の数は他の競技団体のなかでは一番多く、五十名程度が適当であるとの指摘があり、現在の百八名から約半数に大きく変わる予定である。公益財団法人化に向けては特別委員会を設け五月二十日勉強会を行い、六月以降定款の作成、財務の入れ替えなど実務作業に取り掛かる。物理的、時間的にタイトな時期であるとの話があった。

報告事項として、中学校武道必修化に向けた条件整備として、施設、指導者、用具の対応の充実が図られ、特に設備においては安全・安心な学校づくり交付金(中学校武道場新築分)に加え、新たに地域活性化・公共投資臨時交付金で大幅に補填され、実質九十

五%程度を国が負担することになるという説明があった。県弓連としても今後どのように働きかけていくかを早急に検討する必要性に迫られている。

新会員システムの構築、創立六十周年記念事業、また二十二年四月に予定

各事業部より(その二)

競技部長 平野 英孝

競技部長を拝命して



平成二十一年度評議員会で競技部長を拝命いたしました。もとよりそ

のような器量ではなく、全く「青天の霹靂」の思いであります。

幸い競技部で担当する六大会につきましては、前任の大蔵競技部長が道筋をつけていただいておりますし、担当副会長の清水克也先生も以前競技部長を経験されておられますので、お引き受けするにあたり何より、心強い味方であります。

また、四ブロックから選出いただいた十四名の方々は、県弓連を支え牽引される皆さまですので、部長の力不足

されている国際弓道大会等については機関紙弓道に既に掲載、また詳細が決定すれば掲載されるはずであるので割愛する。以上概略を記して報告とします。

は、十分補っていただけるものと確信しております。

競技の運営にあたり、部員が一丸となつて取り組むのは勿論のことではありますが、何よりも大会開催地の支部長さんをはじめ多くの会員の皆さまのご協力をいただかなければ、大会運営ができません。

特に長野県の広い地形から、大勢の選手に参加いただくためにどうしても開催地が中心地域となり、一部地域の支部の皆さまのご負担が大きくなることと思いますが、何卒絶大なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

また、支部長さん並びに大会参加予定の選手の皆さまにお願いですが、県弓連事業計画書に予定されております各大会につきましては、特別の場合を除きご案内はいたしません。大会十日前までに支部長さん経由で申し込みとなり、期前申し込みとなりますので、期限厳守をお願いいたします。

特に山川会長から、県弓連で主催する大会をはじめ、各地で開催する全ての大会が、一定のルールの中かでスムーズに運営ができる指針として「長野県競技運営要項」の制定を強く指示されました。

各種大会がスムーズに運営するため役員構成から、役員の任務と配置等を定めたもので、全弓連の競技規則を基にして作り上げようとしております。

競技部員を中心に関係の方々にもご指導いただき、一日も早く成文化して

皆さまにご提示したいと考えております。

会員の皆さまには、事業計画に予定されており各各種大会に、選手として大勢ご参加いただきますよう、競技部員一同皆さまのご参加をお待ちしております。

終わりに、過去二年間広報部長として多くの皆さまのご支援ご協力をいただき「弓道ながの」を発刊させていただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

新潟国体の展望

強化部長

北嶋 晋

平成二十一年度の本国体は、新潟県で開催されます。開催県はフルエントリーとなり、富山・石川・福井と本県の四県で決められた枠を競い合うこととなります。少年男女はそれぞれ一県ずつ、成年女子は二県、成年男子は三県です。少年男女において、非常に厳しい戦いが予想されます。

さて、平成二十一年度の強化指定選手は、成年男女については昨年の十二

月当初の選考会で、また少年男女については同時期に開催された選抜大会県予選までの一連の大会を通して、すでに決定しており、二月当初から四地区で強化練習を始めました。以下種別ごとに『展望』を述べてみたいと思います。

まず、少年男子ですが、ここ二年間本国体で入賞を重ねてきました。過去において遠的での出遅れが最後まで響

き、もう一步のところまで本国体出場を逃すことがありましたが、遠的の強化を図りこの二年は一位をとっておりません。反面伝統的に強かった近的で実力を出せずにいました。今年は、枠が一つですので、遠・近ともに一位を取らねば本国体出場は無理です。長野の選手は、北信越を通過後に力をつけて本国体で入賞するパターンができています。夏休みを利用した強化練習の機会を従来よりも増やすことが必要です。そして射形正しく、会の深い選手を掘り育成しなければなりません。このことは全ての種目に当てはまります。

次に、少年女子ですが、一昨年は遠的一位、近的四位で本国体出場。昨年は遠的の最下位、近的一位でしたが出場成らず。少年男子同様遠・近で一位を取ることが絶対条件となるでしょう。遠的は、近的をベースとします。近的がある程度確立できていなければ遠的は伸びません。また、日常的に練習ができる環境が近くにあることも条件に加わってきます。

成年女子ですが、四年前に本国体出場を久しぶりに果たして以来、苦しい状況が続いて来しました。今年は四県から枠が二ですし、過去において強化部を巣立って行った選手たちが戻ってきましたので、可能性がでてきました。高いレベルで切磋琢磨できる状況が予

想されますが、富山・石川は依然として実力を有しておりますし、福井は昨年本国体に出場し、近的で三位入賞しています。本国体出場の条件としては、先ず遠的で一位を取ることが必要です。

最後に成年男子ですが、一昨年は秋田国体で近的二位、遠的予選落ち。昨年は大分国体で遠・近ともに不本意な予選落ちでした。この二年の主力メンバー四人が残っておりますので、四県から三つの枠を取ることが可能だと思えますが、何が起るかわからないのが弓です。気を引き締めて強化を進めて行くつもりです。(目指すは遠・近全国制覇)

以上『展望』と称して思いつくままを述べてまいりましたが、遠的に関しましては点数制ですので、真ん中の黄色に四ツ矢が集まれば四十点です。三人で一チームですから百二十点満点となります。合計点をどこまで伸ばすことができるかは練習量にかかってきます。遠的は開発途上と言っても過言ではありません。個々に、また団体で上限を伸ばす可能性がまた潜んでいます。近的は各県ともの差の中の上限が上がってきてさほどの差がありません。近的の基礎を確立し遠的の矢数を増やしていくことが強化練習の課題であり達成目標であります。We can make it!

新任



ジュニア部長 山田 雅亮

ジュニア部の部長に新たに就任いたしました山田雅亮でございます。

今まで、県弓連のジュニア部員として、又、県高体連の専門委員として、主に高校生の弓道に携わつて参りましたが、昨年まで中学生や高校生の弓道を支えてこられた前部長の古澤金藏先生が退任なさり、その後を受け継いで此の度の着任ということで、大変重い責任を課せられた思いであります。

ジュニア部の活動は、中学生と高校生が主な対象であります。中学生に対しては、七月に「全国中学生弓道大会県予選会」を昨年と同様に実施いたします。昨年の参加選手数の状況を見ましても、中学生の弓道人口は大変少ないのが現状ですが、一人でも多くの選手が参加してくれることを望んでおります。高校生に対しましては、十二月に「全国高校弓道選抜大会県予選会」を実施いたします。昨年とは若干競技形式を変えて行いますので、本年の形式についての反省や感想を大会後充分に検討し、来年以降に活かしていきたいと考えております。以上の競技会がより充実したものであるためには、普段の稽古などの環境づくりも重

要かと思えます。そのような点も考慮に入れて、連盟や学校の先生方のご指導を頂きつつ、充実したジュニア部の活動にしたいと考えております。

さて、ジュニア部の活動といたしましては、以上のことに加えまして、本年以降新たな課題が二点あります。一点目は、インターハイについてであります。評議員会におきまして前部長の古澤先生が報告されましたが、平成二十四年に「全国高校総体(インターハイ)弓道競技大会」が長野県で開催されます。現在、松本市で実施する方向で調整が進んでおります。インターハイといえ、運動部員ならば誰でも憧れる大会であります。そして、年に一回、全国から選手・監督・応援の人々が集まって競い合う大会であります。是非とも成功させるために、ジュニア部としても、高体連とも連携を保ちつつ全面的に開催に関わっていかなくてはならないと思っております。

課題の二点目として、中学生への弓道の普及ということでもあります。近々中学校の教育課程において、武道が正課となります。それに伴いまして、全弓連会長の鈴木先生や本県弓連会長の山川先生からも、中学生への普及について再三お話があるところであり、普及と活性化のためには、指導者の存在が重要かと思えます。社会体育

退任
新任



広報部長 征矢 憲

ご挨拶

の方面で既に中学生を指導されている先生方もいらっしゃいます。又、ジュニア部の中にも中学校に関わっている部員がいらっしゃいますので、諸先生方のご意見を伺いながら、普及に努めていきたいと考えております。目前に迫っている課題には一つずつ着実に取り組み、長期にわたる課題には将来のビジョンをしっかりと見据えて対応していきたいと考えております。皆様方には、何とぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成十七年二月から本年一月まで、ジュニア部担当の副会長として四年間務めて参りましたが、任期満了にともない、退任させていただきますことになりました。

在任中は、会長の山川先生をはじめ、役員・会員の皆様、とりわけジュニア部長の古澤先生や部員の皆さまのご支援をいただき、恙無く大任を全うできましたこと、未熟な私にとりましては何物にも代え難い貴重な経験となりました。爰に、改めて心から御礼申し上げます。

役員改選に伴い、新たに広報部長に

就任しました。本連盟の活動を内外に発信する重要な役割を担う部署でありますので、微力ながら部員の皆様と総力を挙げて事業の遂行に邁進したいと意を新にしております。事業は、広報紙「弓道なごの」の年四回の発行とHPの管理と拡充を計る事です。県弓連の活動をより多くのの人に伝達しつつ、弓道を通じて会員各位の人生が豊かになりますように念じながら誠心誠意、務めて参ります。会員各位には、原稿執筆、投稿・寄稿、情報の提供のほか、HP活用に関するご意見を積極的に寄せ頂きますよう、お願い申し上げます。広報部長就任のご挨拶といたします。

県弓連 HP が移転しました

県弓連HPアドレスが下記に移転し、装いを新たに稼働を始めました。ご活用下さい。

URL >>> <http://www.kyudo-nagano.jp/>

Mail >>> 総務部 (県連へのお問い合わせ先)
>>> info@kyudo-nagano.jp

弓道なごの編集 (身近なニュースをお知らせ下さい)
>>> editor@kyudo-nagano.jp

大会結果報告 (大会結果をお知らせ下さい)
>>> results@kyudo-nagano.jp

ホームページ担当 (HPに関するお問い合わせ先)
>>> webmaster@kyudo-nagano.jp

女子称号者講習会に参加して

飯山支部 清水 和代

四月二十五・二十六日の両日、上田城跡公園弓道場において、範士八段佐竹万里子先生を講師にお迎えして開催され、三十七名が受講しました。

第一日目は、矢渡しの介添えの講習後、一手行射。引き続いて、佐竹先生からの講話では、

一、初心者には、弓道を初めて教わる先生によって進む道が決まり、何を目的に進んでいくのかによって全く違ってしまふ。

二、何のために(何の目的のために)弓を引ているのか考えているか。

三、弓というものは、自分勝手なものではなく、「基本」に忠実に日々修練していくもの。射品や射格など、自分に問いかけてながら日々修練して欲しい。

四、「弓は、思いが射に出る」物に動じない心を修練することは、日常生活においても同様に行動できることになる。など、称号者としての、また日々の修練の心構えについてお話がありました。続いて、射技指導を佐竹先生と共に山川県連会長にも一緒にご指導いただきました。



受講生に弓の道を説く佐竹範士

その際も、基本に忠実に。体の軸はどの動作時にもぶれないように。そして、体の真ん中で離れるように、頭で命令せずに「体のセンサーを信じる」ことが大切。頭で命令するから上手くないかないし、隙ができる。などのお話がありました。

第二日目は、午前中のみと時間の少ない中で、女性が和服で美しく弓を引くための留意点のお話の後に、射礼研修。そして、仕上げの一手行射と、あつと言う間に時間は過ぎてしまいました。

この時期としては気温の低い二日間でしたが、とにかく「基本に忠実に」修練を積むことの大切さ、受講生一同、再確認した有意義な講習会でした。

平成二十一年度北信越地区指導者講習会に参加して

教士六段 奥山 誠治

五月十六日、十七日北信越地区指導者講習会が福井県立武道館弓道場で開かれた。新潟、富山、石川、福井から各五名、長野から七名合計二十七名で行われました。講師の先生は群馬県の須田定雄範士、福島県の加藤出範士。

一日目、須田先生の矢渡し、剛弓を引くと聞いていましたがその力強さに驚きました。受講生の介添、加藤先生の評価と指導があり、その後受講生全員の一手行射、須田先生より講評、講話。道場は修養の場であり、自己修養を行い、自分を高めて行く努力をする事が大切であると。日本の礼法は心遣い、気遣い(心配り、気配り)を。心のない動作は許されない。また利己主義は弓道でいちゃばん嫌われると。すべての動作には意味があり、その事を良く考えてほしい。悩み苦しみ考えて道を開いて行く事に価値があり修養に繋がる。人に聞いていては修養の意味がないと。厳しいお話であった。

午後は午前のお話を意識して持ち的



真剣さが伝わる講習風景

射礼、一つの射礼の研修、細部に渡り注意指摘を受け真剣な行射を行った。

二日目は加藤先生の矢渡しで始まり、見事な射を拝見しました。

朝から雨降りの肌寒い一日であったが射場は熱気であふれていた。午前中全員で持ち的射礼の研修を行う。

午後加藤先生の講話で始まり、先生の経験談を交えた話で、稽古は課題を持って行い、満然とした稽古をしない。理念を持って行う事が望ましいとの話であった。引き続き射技指導をして午後四時過ぎ終了。両講師の熱心な御指導に小林克受講生より御礼を述べて二日間の講習会を閉じた。

私と弓道

長野支部 蟻川 恭史

私が弓道を始めるきっかけを与えてくれたのは父でした。今から八年ほど前、高校の教員であり、弓道の顧問をしていた父は、私に弓道をやって欲しいという思いがあったようです。私がそう感じたのは私が高校生の頃から、「弓をやらなにか？」と言う父の言葉を時々耳にしたからです。私が高校生だった頃、弓道にあまり深く関心を持っておらず、父の思いに反するように高校でも、大学でも弓道には接してきませんでした。

現在、私はシステムエンジニアの仕事をしておりますが、この仕事は精神力と体力が必要と言われる職業です。神経をすり減らす毎日の中で、精神力を鍛えたいと思うようになりました。そんな時、父に「善光寺の弓道場に行ってみるか？」と誘いを受け、弓道をやれば精神力がつくと思ひ、ついに弓道を始める事となりました。

暫くは父の教えで、練習を行っておりましたが、私の仕事が忙しく、あまり道場に行く事ができませんでした。ようやく仕事が落ち着き始めた頃、父は他界してしまいました。暫くは弓道場からも足が遠のいてしま

い、このまま弓に行かなくなってしまうのではと思う事も何度かありました。しかし、それを思い止まらせて呉れたのが、善光寺弓道会の方々でした。練習を見てくださる先生方や会員の方々。月例会でも、練習不足でうまく弓を引けない私を温かく見守ってくださいの方々。そんな温かい皆様のお陰で今まで弓道を続ける事ができました。

今では、私にとつて、善光寺弓道場は、弓道の練習をする場所であると同時に、たくさんの方々にも巡り会える大切な場所となつております。そんな場所を私に与えてくれた父、そして、善光寺弓道会の会員の方々にとつても感謝しております。



中央が筆者

弓仲間紹介

豊科弓道場

「弓仲間」

安曇支部 事務局長 丸山 萬佐巳

平成元年、安曇支部の第六期弓道教室へ、小学校時の恩師の紹介で入門した

のが、私と弓道との出会いです。学生時代にも経験がなく、お祭りや観光地の「射的ゲーム」感覚で弓が引けると思い教室に行つたところ、立ったりすわったり、歩いたりの繰り返しで、想像を絶した別世界への入口でした。

あれから歳月は経過し、現在支部ではちょうど第二十五期の弓道教室が開催されています。人間なら生まれて二十年経つと成人しますが、弓の二十年はまだまだ若僧、なかなか一人前になれません。

第六期教室からは私一人。七期から二人。八期は残らず九期で一人、十期が多くて三人といったように、教室終了から支部に入会し、現在まで続けて



前列の右から二番目が筆者

いる者はほんのわずかです。教室は開催しても入会する者が少ないという問題をかかえながら、無駄だから、と教室を開かない年もありました。しかしここ数年は、『弓具の貸与』や『教室後の追加指導』など行っているため教室から入会し、継続する者がしだいに増えだし、大分にぎやかになってきました。

年齢もそれぞ

れ、仕事もいろいろな者達が、同じ趣味で結ばれて、一喜一憂できることはすばらしい事だと思ひます。現在七十余名の会員ですが、午前、午後、夜と絶えず道場を利用し、最近では錬士称号を二名が授与さ

れ益々元氣な安曇支部です。

合併もあり、市内の高校生を集めて講習会を開いたり、高校生と一般が同一チームの地域対抗戦を催すなどして仲間に協力し合つて努力しています。これからも支部長を支え『方向の明示と後方の準備』で、最高の仲間作りに努めて行きたいと思ひます。

駒ヶ根百射会

駒ヶ根弓道部 水田 明美

駒ヶ根百射会は市体育協会弓道部の主催により、駒ヶ根市弓道場が完成した平成四年から毎年行われていきます。

十七回目を数える今年、地元は勿論の事、北は上田から、また南は飯田より多くの弓士の方々に参加していただき、今までにない盛況な射会を催す事ができました。

寒いながらも穏やかな朝を迎えた二月二十二日。百射に挑む参加者は総勢三十三名。中には昨年の大分国体成年男子の選手を始め、今年の日体強化選手の方々も多数。優勝または自己記録更新など、人それぞれの目標を持ちながら、射会の日が始まりました。

百射引く中で黙々と的中を重ねる人、射に悩みながらも懸命に弓を引く人。十人十色、いや百射百様の様相。その中で行射の合間には地元会員が用意したおでん等を食べ、参加者同士の親睦を深めながら、和やかな雰囲気の中で射会は進みました。

午後になって日が翳り、風も出てきました。弓士の皆さんが一射一射近づくと百射目の到達点に向って真

剣に行射する姿には、弓道に対する気持ち垣間見られ、自戒の念も込め、改めて弓に対する姿勢を考えさせられる事となりました。

注目の結果ですが、射会開始時より安定した的中を続けた諏訪支部の中村さん、市川さんの二名が九十六射目での中数が並び、優勝の行方は最後の四ツ矢にもつれ込みました。が、共に皆中。合計九十四中にて同中となりましたが、皆中の数で中村さんが僅かに上回り、第十七回駒ヶ根百射会の優勝者となりました。

今大会では上位三位が全て国体強化選手で占められ、今年の日体に期待が寄せられる結果となりました。

なおこの百射会では、最高の中数が更新される毎にその記録を讃えて道場に掲額する事になっています。最後の掲額は平成十五年に駒ヶ根市の山岸稔員さんが記録した八十八中でしたが、この度六年ぶりに中村さん、市川さんによって記録更新となりました。

ので、両者連名にて道場に掲額いたします。



平成二十年の年末の偶然

飯山支部 岡田 宏之 (七十三歳 四段)

平成五年八月五日に飯山市弓道場が竣工され、私はこの年に初めて弓道教室に入会し、爾来、古澤範士、平野教士のご指導を受けてこの道に精進してまいりました。

平成二十年十二月二十一日の早朝

の稽古での出来事でした。最後の乙矢が甲矢に「継矢」し、矢が長くなつていてビツクリ！弓の道に入つて十五年目の出来事でした。



飯島弓道場に遠的射場完成

このほど飯島町営弓道場に遠的射場が完成し、五月三十一日(日)、山田町教育長はじめ関係者が集まり落成式を挙行しました。遠的場の設置は当初からの悲願で、関係者にとつては感慨深い、最良の日となりました。射場は弓道場と東側の農地との間に設置され、三人立ちの南から北に向かつて矢を放つ射場です。今井建設の今井勉さんが自ら重機を操り完成したもので、今井勉教士の古式に則つた地固めの儀式に続いて、会員の弓士が一手ずつ的を射たのち、

ささやかな祝宴を張り、完成を祝いました。

飯島弓友会会長の伊藤佳雄さんは「弓道場利用者には遠的射場も一緒に利用して欲しい」と挨拶し、飯島弓友会を挙げて大勢の弓士の来場を待ち望んでいます。



飯島町建国記念百射会

飯島弓友会 米山 裕恵

二月十一日(水)に飯島町弓道場において、第二十七回飯島町建国記念百射会が行われました。当日は、天気もよく、この時期としては暖かくて、一日かけて引くには良い日だと思えました。

当日は、佐久、松本、諏訪など遠方の方から、地元の上伊那の皆さんが参加してくださいました。国体経験者も大勢みえて、結果にも出ていますが、さすがの的中数でした。

午前九時に山口安彦会長の挨拶で開始となりました。

最初の二十射は、例会でも引く数なので、割と気楽に引けます。百射会は体力勝負なので、おでん、お菓子や飲み物など、食べ物をたくさん用意してあります。引いた端からエネルギーを補給しないと体力が落ちません。控えの間につまむ程度なので、立ち食いにはなってしまうますが、その間に話をしたり、和気あいあいとした雰囲気は百射会らしくて、楽しいです。

差し入れもたくさんいただきました。東伊那の方に「ざざむし」も頂きました。「ざざむし」は上伊那の珍味で、川の虫の甘露煮です、自家製のものは、こういう機会でもないとなかなか口にできません。四十射引いたところで、お昼です。

食後のデザートにケーキを頂いて、午後の部スタートです。

午後の方が射数も多いので、だんだんきつくなってきました。肘が入らなくなり、疲れて集中力も落ちてきます。私は早気なので、会が短くなるならまだしも、弓を体に引き付けられなくなり、口割まで下りなくなつてきます。

午後の集中力が切れてきたころ「おそば会」が始まります。山口会長はそば打ち名人なのです。つゆもそば粉も全部自家製で、つゆの仕込みは一週間以上かかるそうです。毎年参加してくださいる方の中には、おそばを楽しみにしている方もいます。一度に茹でられるのは二ざるなので、茹で上がりを運ぶ頃には、ざるは空っぽになつていきます。猪口を片手に「まだあ？」と台所の方を覗いている先生もいます。

夕方になり、最後の二十射になると「あと少し」ともうひと頑張りする気になつてきます。完走してしまえば、百射引く中で、今までより出来たこと、出来なかつたことと、反省や成果が見えて、次からの練習の方向が見えてきたりします。結果は前号に記載したので省略します。



『ときめき新潟国体』 代表選手、決定!

六月十三〜十四日に県営飯田弓道場で行われた最終選考会で今年の国体代表選手が決定された。強化指定選手として強化練習・合宿に参加された選手の皆さん、関わってこられた強化部関係者の皆さん、本当にご苦労様でした。本国体に向け一層の練習を重ね、県民の期待に応えられますよう、ご健闘を祈念します。

- ◆少年男子
 - ☆選手 谷津 聡 (岩村田高校)
 - 清水 北登 (上田高校)

- ◆成年男子
 - ☆選手 市川 隆光 (諏訪支部)
 - 志村 仁 (諏訪支部)
 - 亀岡 英司 (南佐久支部)
 - ★補欠 中村 宏 (諏訪支部)
 - ◆成年女子
 - ☆選手 栗林 薫 (松本支部)
 - 中村 美穂 (上伊那支部)
 - 高山 寿恵 (飯伊支部)
 - ★補欠 浦野恵末香 (上小支部)

大会結果

◆県下弓道駒ヶ根大会

○4月5日/駒ヶ根市営

- ▽団体の部
 - 1位 岡谷南A
 - 2位 飯田風越A
 - 3位 豊 丘
- ▽個人・高校男子
 - 1位 有賀大輝 (岡谷南)
 - 2位 牧野俊輝 (風越)
 - 3位 吉田典史 (伊那北)
- ▽個人・高校女子
 - 1位 中村彩乃 (辰野)
 - 2位 高橋安美 (岡谷南)
 - 3位 金子怜美 (岡谷東)

▽一般の部

- 4月15〜16日/野辺山
- ▽近的(20射)・遠的(20射) 計40射
 - 1位 中村 宏 (諏訪支部) 37中
 - 2位 亀岡英司 (南佐久支部) 36中
 - 3位 市川隆光 (諏訪支部) 35中

◆平成21年度勤労者弓道選手権大会 兼第56回全日本勤労者弓道選手権大会 長野県予選会

○4月12日/駒ヶ根市営
▽団体の部

- ▽個人の部
- 1位 県信用組合(吉田・塩澤・井垣)
- 2位 山二発條(志村・今村・長屋)
- 3位 中電長野(樋口・神田・牧内)

- ▽射技優秀賞
- 志村 仁(山二発條)
- 渡邊 悟(中電長野)

◆第65回上信越弓道大会
【小諸懐古射院創立80周年改築記念】

- 4月19日/小諸懐古園
- ▽団体の部
- 1位 上田市(戸田・飛知和・村山・清水)
- 2位 群馬県
- 3位 群馬県

- 4月29日/松本護国神社
- ▽近的個人・高校の部
- 1位 細川 薫(深志)
- 2位 岡本将浩(豊科)
- 3位 大沢侑香(豊科香)

- ▽同・一般の部
- 1位 志村 仁(諏訪)
- 2位 柴 穂穂(上伊那)
- 3位 平松鉄平(信大)

- ▽近的団体・高校の部
- 1位 深志A
- 2位 豊科香
- 3位 松商B

- ▽同・一般の部
- 1位 諏訪(志村・中村・市川)
- 2位 信大B(五味・久保田・野村)
- 3位 信大B(中村・矢野・平松)

- ▽遠的・高校の部

- ▽同・一般の部
- 1位 徳嵩未紗子(蟻ヶ崎)
- 2位 丸山佳帆(穂高商)
- 3位 田中理絵(志学館)

- ◆第53回北信弓道大会
- 4月29日/飯山市営
- ▽近的団体・高校男子
- 1位 長野西B
- 2位 長野高A
- 3位 長野高B

- ▽同・高校女子
- 1位 屋代高B
- 2位 長野吉田C
- 3位 須坂高B

- ▽近的個人・高校男子
- 1位 古澤竜一(長野西)
- 2位 戸堀雄介(松代)
- 3位 荒井 悟(長野西)

- ▽同・高校女子
- 1位 北村美咲(飯山北)
- 2位 上條未来(文大長野)
- 3位 太田安紀(須坂)

- ▽同・中学男子
- 1位 轟 拓磨(日大中)
- 2位 和田知大(同)
- 3位 中村誠人(同)

- ▽同・中学女子
- 1位 堀内まなみ(日大中)
- 2位 永江有子(同)
- 3位 吉川優希(同)

- ▽同・一般男子
- 1位 大和邦浩(飯山支部)
- 2位 小林康男(小諸支部)

- ▽同・一般女子
- 1位 金子真梨(長野高専)
- 2位 竹田礼子(中高支部)
- 3位 田尻幸恵(中高支部)

- ◆第36回佐久鯉祭り弓道大会
- 5月5日/駒場公園
- ▽高校の部
- 1位 岩村田A
- 2位 野沢北A
- 3位 小 諸A

- ▽一般の部
- 1位 志村 仁(諏訪支部)
- 2位 中村 宏(諏訪支部)
- 3位 斉藤秀和(長野大学)

◆第60回全日本弓道選手権大会
◆第42回全日本女子弓道選手権大会
長野県予選会決勝

- 5月10日/松本市営
- ▽男子の部
- 永藤 聡(須高支部)
- 大蔵 務(長野支部)
- 宮坂博之(諏訪支部)
- 田中正彦(松本支部)
- 下坂哲也(長野支部)

- ▽女子の部
- 永島淑子(長野支部)
- 相原由美子(小諸支部)
- 降旗泰子(諏訪支部)
- 清水和代(飯山支部)
- 藤沢敏子(飯伊支部)

(以上10名、7月26日の北信越ブロック予選に出場)

◆第60回全日本弓道大会

- 5月3日/京都勧業会館特設
- ▽有段者の部
- 2位 志村 仁(長野県・五段)

- ◆第46回池田町弓道場開設記念県下弓道大会
- 5月10日/池田町営
- ▽個人の部(一般・高校共通)
- 1位 田中竜太(大町)
- 2位 奥田美咲(穂高商)
- 3位 田中理絵(志学館)

- ▽団体の部(一般)
- 1位 混成B
- 2位 長野運動公園
- 3位 大町弓道会A

- ▽同(高校)
- 1位 松商G
- 2位 穂高商A
- 3位 松商H

- 5月23日/上田城跡公園
- ▽個人(男女共通12射)
- 1位 鈴木清重(上伊那) 11中
- 2位 廣田義照(木曾) 9中
- 3位 鎌 裕子(木曾) 9中

◆遠の場落成記念 第55回大町市市制記念県下弓道大会

- 5月24日/大町市運動公園
- 1位 渡辺 晃
- 2位 松井幸彦
- 3位 丸山真弓

◆第26回無相大師奉賛弓道大会

- 5月30日/中野市営弓道場

◆第52回近県弓道上田大会

- 1位 小山謙太郎
- 2位 安藤直貴
- 3位 原田正浩

○5月31日/上田城跡公園

▽高校の部(男子団体)

- 1位 長野西
- 2位 上田A
- 3位 上田東A

▽高校の部(女子団体)

- 1位 上田染谷A
- 2位 上田A
- 3位 佐久長聖A

▽一般の部(団体)

- 1位 信大繊維
- 2位 群馬A
- 3位 豊丘

▽一般の部(個人)

- 1位 松枝敏広
- 2位 斉藤秀和
- 3位 笹岡達也

◆平成21年度長野県総合体育大会弓道競技

○6月6~7日/長野市運動公園弓道場

▽男子個人(12射)

- 1位 永島 悠 (辰野) 12中
- 2位 牧野俊輝 (飯田風越) 11中
- 3位 藤森千友貴 (諏訪二葉) 10中

▽女子個人(12射)

- 1位 井原由記子 (田川) 10中
- 2位 田中理絵 (塩尻志学館) 10中
- 3位 小林春香 (松本深志) 10中

▽男子団体

- 1位 飯田風越高校
- 2位 飯田工業高校
- 3位 上田高校・岡谷南高校

▽女子団体

- 1位 赤穂高校
- 2位 辰野高校
- 3位 下諏訪向陽高校・上田染谷丘高校

審査合格者

平成21年度推薦(5月1日)

▽八段 竹内 律子 (松本支部)

▽錬士 笹本 常夫 (小諸支部)

近畿錬士臨時中央審査(5月6日)

▽錬士 松島 一夫 (飯伊支部)

▽錬士 春原 由美子 (上小支部)

東海地区錬士臨時中央審査(5月23日)

▽錬士 米山 多美子 (安曇野支部)

表彰

◆長野県体育協会

二〇〇八年度スポーツ振興功労者表彰
有功章 平野 英孝 (飯山市・弓道)

◆飯田市体育協会表彰

功労賞 荒井 清 (教士六段)

お悔やみ申し上げます(敬称略)

参段 林 大樹 (84歳)

駒ヶ根市 5月30日

教士 六段 依田禮之助 (92歳)

軽井沢町 6月9日

「はろはろ」

さくらの季節もあつと言う間に過ぎて、私が「ひとりごと」を書いている頃は八十八夜も過ぎて、田植の時期も終り青田になつていると思います。千曲川の風物詩でもある「ツケバ」が最盛期となり夏のはじまりです。又この時期は寒暖の差が大きいです。弓友の皆さん新型の風邪には充分に気を配り乍らご活躍下さい。

一月の評議員会で役員改選が行われて早いもので半年もすぎました。広報部も新体制になつて第三十号の発行になりました。皆様より、より多くの原稿や、大会報告、提言等、どしどしお寄せいただいで充実した「弓道なごの」に育てていきたいと思ひますし又私の願ひでもあります。

これからも各地区の弓道会では盛り沢山の大会、射会等が行われます。又各審査会も沢山にあります。様々な射会や審査会に参加して自身の技をみがき又見聞を広め、弓友同志の親睦を深めて行く事も大切な事ではないのかと思ひます。最後に「広報部員」一同よりよい紙面の作成に頑張りたいと思ひます。

(鷹野)

弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立 1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立 2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山1003

HP: <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861